

台風の接近に伴う大雨・強風等に対応した技術対策について

令和 8 年 6 月 1 日

山形県農業技術環境課

台風第 6 号は、1 日は強い勢力で沖縄地方、奄美地方にかなり接近し、その後、3 日にかけて暴風域を伴ったまま西日本から東日本に接近するおそれがあります。

最新の気象情報に十分留意しながら、下記を参考に、対策の徹底をお願いします。

1 共 通

(1) 作業時の安全確保

作業は、安全に十分配慮し、焦らず落ち着いて行う。事前の対策は強風・大雨の前に終わらせ、悪天候時の作業や見回りは行わない。特に強風時には高所での作業は行わない。

(2) 圃場の排水対策

大雨による浸水・冠水に備え、事前に暗渠や排水路の点検・補修を行う。特に、水田転換畑や低地樹園地等は、停滞水が発生しないように排水溝等の点検と整備を行う。

2 果 樹

(1) 加温ハウス、雨よけ、棚等の施設は、柱や部材、アンカーなどの点検を行い、破損箇所やゆるみがある場合は、補修・支持材の追加を行う。

(2) さくらんぼやぶどうの雨よけ施設等では、マイカ線の点検と締め直し、ハウス妻面のパッカーの追加、被覆資材の破損部の補修等を実施する。強風の後もゆるみやたわみが生じている場合があるので、再度点検を行う。

(3) さくらんぼの収穫時は、風の強さ等を考慮し、十分な安全を確保する。また、強風によるスレ果の発生が懸念されるため、定期的な防除を徹底する。

3 稲 作

(1) 強風による稲体の損傷が予想される場合は、深水にして稲体を保護する。

(2) 冠水した場合は、葉先だけでも水面に出すよう速やかな排水に努める。

(3) 大雨で深水となった場合は、天候回復後、速やかに浅水にして、分けつの発生を促す。

4 大 豆

(1) 大雨後、圃場内に滞水しないように、水路や明渠などの排水溝は事前に点検・整備を行う。

(2) 滞水した場合は、発芽障害や根腐れ、生育遅延を引き起こすため、速やかな排水対策を行う。

5 野菜・花き

(1) 露地品目

- ア すいか、メロンは、被覆資材が飛ばされないよう、マイカ線の締め直し、支持材の点検、被覆資材の破損部補修等を実施する。
- イ 夏秋きゅうり、なす、アスパラガス、きく、りんどう等では支柱や防風ネット、フラワーネット等の点検、補強を行い、茎葉や果実の損傷を防ぐ。
- ウ えだまめ等の露地圃場では、大雨による浸水や停滞水による根腐れ等の発生を防ぐため、速やかに排水できるよう排水溝の点検、手直しを行う。
- エ ねぎ等が倒伏した場合は、天候の回復を待って速やかに起こし、生育の回復を図る。また、果菜類は損傷した果実や不良果は速やかに摘除する。
- オ 損傷した茎葉は取り除き、病害予防のため、防除基準を参考に防除を行う。

(2) 施設品目

- ア パイプ支柱やアンカーなどの点検を行い、損傷箇所や連結ジョイントなどにゆるみがある場合は、速やかに補修を行う。アンカー等は必ず設置して、強風によるパイプや支柱の浮き上がりを防止する。
- イ 強風による被害を防ぐため、天窓や側窓などの点検を行い、マイカ線の締め直し、支持材の点検、被覆資材の破損部補修等を実施する。また、フェーン現象による気温上昇で天窓等が自動開放しないよう手動制御とする。
- ウ 被覆資材が破損した場合は、風等の状況を見ながら速やかに補修する。
- エ 作物の被害が発生した場合は、被害株の抜き取りや茎葉を摘除するとともに、灌水や液肥の茎葉散布、追肥により草勢回復に努める。また、病害虫の発生に留意し防除基準を参考に防除を行う。

6 畜産

- (1) 強風による破損被害を防止するため、畜舎・堆肥舎等施設の点検と補強を行うとともに、施設内への浸水防止対策を講じる。
- (2) 浸水等により家畜等に被害が生じるおそれがある場合は、事前に避難場所を確認しておく。また、停電や断水に備えて自家発電機の点検または手配について事前に準備しておく。
- (3) 放牧場では、排水が良く風当たりの弱い牧区に家畜を移し、事故を防止する。